

## 「こどもホタレンジャー」の表彰について

### 1. こどもホタレンジャー

暗闇の中を飛び交うホタルの光は、古くから日本の原風景として大切にされてきました。こうした風景が多く地域で失われてきた一方で、失われたホタルを呼び戻そうとする活動や残されたホタルを守ろうとする活動も広がってきています。

こうしたホタルを守るこどもたちの活動を、「こどもホタレンジャー」と名付けました。これは、ホタルを守る人という意味で、「ホタル」と「レンジャー」をつなげたものです（レンジャー（ranger）とは、パークレンジャーという言葉があるように、森林や自然公園を警備したり、保護したりする人という意味があります）。

このような活動の報告を今回初めて募集しました。

### 2. 受賞団体

121件（71団体）の応募の中から審査委員会の審査結果を踏まえ、環境大臣賞1団体、優秀賞5団体を決定しました。（各団体の審査概要については別紙参照）

環境大臣賞 <sup>ほっき</sup>法吉こどもエコクラブ（島根県）

優 秀 賞 松崎中学校 ゲンジボタル保護ボランティア（静岡県）

<sup>まくやま</sup>幕山子どもホタル団（兵庫県）

広川町立津木<sup>つぎ</sup>中学校 環境整美委員会 ゲンジボタル保護班（和歌山県）

<sup>たかはし</sup>高梁市立<sup>しろち</sup>福地小学校（岡山県）

古賀市立小野小学校 第四学年（福岡県）

受賞団体の活動レポートは、環境省ホームページに掲載しています。

(<http://www.env.go.jp/water/info/hotaranger.html>)

### 3. 表彰

平成17年3月30日（水）14時より、共用第8会議室（中央合同庁舎5号館6階）において、環境大臣賞及び優秀賞の表彰式及び活動報告会を行いました。



#### 4. 主催・後援

主催：環境省、(財)水と緑の惑星保全機構

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省

#### 5. 審査委員

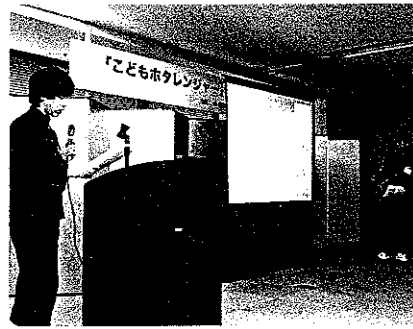
こざわ  
小澤紀美子 東京学芸大学教授  
須藤隆一 東北工業大学客員教授  
菅原浩志 映画「ほたるの星」監督  
竹田純一 里地ネットワーク事務局長、(財)水と緑の惑星保全機構事務局次長  
矢島稔 ぐんま昆虫の森園長、日本ホテルの会会長  
嶋野道弘 文部科学省初等中等教育局主任視学官  
甲村謙友 環境省環境管理局水環境部長

### 活動報告会

受賞各団体より、映像や劇など、工夫を凝らした活動報告をしていただきました。



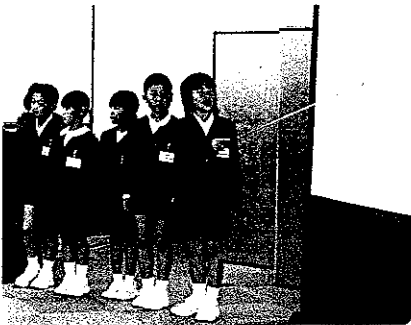
法吉こどもエコクラブ (島根県)



松崎中学校ゲンジポタル  
保護ボランティア (静岡県)



津木中学校環境整備委員会  
ゲンジポタル保護班 (和歌山県)



高梁市立福地小学校  
(岡山県)



古賀市立小野小学校  
第4学年 (福岡県)



幕山子どもホテル団  
(兵庫県)

## 受賞団体の審査概要

### 【環境大臣賞】

<small>ほつき</small> 法吉こどもエコクラブ (島根県松江市、約60人、小学3年生～中学2年生)
地域をあげて環境と文化を守る運動をおこし、その一環としてホタルの復元を図っているクラブの方針と実施活動が総合的ではばらしいと評価された。 特に、以下の点が高く評価された。 <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの疑問や感動を引き出す活動</li><li>・ホタルの生息場所の保全を目指した水質や生物の調査</li><li>・ゴミ拾い、不法投棄パネル等、地域に広がる多面的な取り組み</li><li>・多年に渡る継続的な活動</li></ul>

### 【優秀賞】

松崎中学校 ゲンジボタル保護ボランティア (静岡県賀茂郡松崎町、35人、中学1年生～中学3年生)
台風の影響現場を生徒の手で復元し、数百メートルにわたるホタル水路、荒れ地の復元、カワナ用の田んぼまで造ったことが高く評価された。 特に、以下の点が高く評価された。 <ul style="list-style-type: none"><li>・台風被害及び荒廃地の復元を通じた自然再生活動</li><li>・中学生の自主性、自発性にもとづく活動</li><li>・ホタル水路づくりや地域の方々とのかかわりから学びへとつなげる展開</li></ul>

### 【優秀賞】

<small>まくやま</small> 幕山子どもホタル団 (兵庫県佐用郡上月町 7人、小学5年生)
子ども達の調査から始まり、子ども達の心を育て、人の輪を地域に広げていることが高く評価された。 特に、以下の点が高く評価された。 <ul style="list-style-type: none"><li>・生命の尊厳が感じられるレポート</li><li>・子どもたちの体験を通じた感動のある活動であり、環境への認識が高まっている点</li><li>・楽しいキャラクターシールを使って輪を広げた表現力</li></ul>

### 【優秀賞】

広川町立津木<sup>つぎ</sup>中学校 環境整美委員会 ゲンジボタル保護班  
(和歌山県有田郡広川町 20人、中学1年生～中学3年生)

ホタルを環境の指標としてとらえ定点個体数調査、水質調査を軸に広く保全のための資料をつくり、幼虫も放流していることが高く評価された。

特に、以下の点が高く評価された。

- ・15年以上にわたるホタルの保護を目標とした水辺環境の調査、水質浄化実験等の成果
- ・水をテーマにした環境保全学習を、体験、調査研究など科学的な視点も入れて行っている点
- ・水環境の取り組みとホタルの保全の取り組みとが相互に補完している点

### 【優秀賞】

高梁<sup>たかはし</sup>市立福地<sup>しろち</sup>小学校  
(岡山県高梁市、25人、小学1年生～小学6年生)

福地川の環境保全とホタルを守る活動が一体として進められ、ホタル基金などの斬新な取り組みから、ゴミ拾い、水質検査、ホタルの生態学習など幅広く行われていることが高く評価された。

特に、以下の点が高く評価された。

- ・川砂とりを中止してもらうなど、保全に向けた地域ぐるみの取り組みになっている点
- ・子供達の主体性を評価
- ・レポートから、ほのぼのとした活動の姿が伝わってくる点

### 【優秀賞】

古賀市立小野小学校 第四学年  
(福岡県古賀市、68人(6グループ合計)、小学4年生)

ホタルの生息調査から、子ども達自身が課題を見つけ、グループ毎に分かれて、ホタルと環境の関わりを総合的にとらえた取り組みが高く評価された。

特に、以下の点が高く評価された。

- ・子どもたちが楽しみながら成長する姿が伝わってくる点
- ・6つのプロジェクトチームの独創性と展開内容
- ・ゴミと生活排水問題も取り上げ行動案を示している点